

【様式①】令和4年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 網代小学校

校長名 小森健司

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 「チーム網代」小規模校の良さを最大限に生かし、全職員が全校児童の担任として指導することによって、夢や希望に向かい誰もが大切にされていると実感しながら過ごし、一人ひとりに確かな力が付けられるよう努める。 校長を中心として全職員で組織的にいじめの未然防止、早期発見、早期解決を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーによる「体験カウンセリング」や児童が相談相手を選ぶ選択制教育相談、「ここタン」の活用等により、児童の「困り感」をいち早く察知し、情報を共有し組織的に対応することができた。 全教職員が全校児童の担任として指導することによって、本年度は2件のいじめ事案を確認することができたが、未だ解消にはいたっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーによる「体験カウンセリング」は、子どもが悩んだときにどのように解決への道を見つけるとよいかを学ぶよい体験である。今後も継続してほしい。 いじめについては、解決を急がず、子どもの心に寄り添いじっくりと解消に向けて取り組むことが大切である。その際に、必要に応じて外部機関と連携することも積極的に進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が全校児童の担任として、教職員は「いつでも」「だれでも」開かれた相談窓口として機能することを継続する。その際に、よりよい生き方、考え方を児童・保護者・教職員がともに考えていくことを基本姿勢として取り組む。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識や技能を習得させるとともに思考力、判断力、表現力を高める指導を充実させ、児童の自己肯定感、自己有用感を高める。 授業の中に「見通し」と「振り返り」を必ず位置付けることやICTの活用によって、子どもの主体的な学びを充実させ、確かな学力を身に付けさせる。 隣接校(方果小)との協働学習を推進することで多様で深まりのある教育活動を充実させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業の「見通し」や「振り返り」の場面で、授業支援アプリを活用することで、児童の学習への関心や意欲を高めたり、個々の学びの深まりを実感したりすることができた。また、全校児童の前で発表する場を設定し、表現力を高めることができた。 隣接校や岐阜市内の小規模等との交流を行い、多様な意見に触れ考えを深めたり、自分の考えを工夫して伝えたりする中で学びを深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校をオンラインでつないだ学習活動は、子どもの視野を広める上で有効である。さらに、対面での活動も取り入れながら、リアルなつながりも大切にしたい。 複式学級ができたが、講師を活用した教科担任制などにより、子どもの確かな学力を保障する体制が整えられておりよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業体験や網代探検など、地域から学ぶ体験活動を今後も積極的に実施する。 隣接校(方果小)との交流や岐阜市内の小規模校との交流を今後も積極的に進めていく。その際に、オンラインによる交流だけでなく、リアルによる交流を工夫して積極的に取り入れる。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 幼保園からスムーズな受け渡しができるよう連携を図る。 学校の教育活動について、家庭や地域住民に積極的に情報発信する。 内部・外部評価、児童・保護者の意識調査を実施し、学校運営の改善に生かす。 地域で学ぶ、地域の人や物から学ぶ「ふるさと網代」への愛着を高める学習活動を充実させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、スマート連絡帳、HPなどを通して多くの情報を発信できた。学校だよりは校区全戸と地域の幼稚園・保育所に配布した。 10月と1月に意識調査を行い、結果を公開するとともに学校運営協議会で議題とし、改善点について助言を受けた。 地域の人や物から学び、ふるさと網代への愛着を高める学習活動として「網代の歴史を学ぶ会」「農業体験」「網代探検」などを実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりの校区全戸配布により、学校の様子をよく知ることができた。また、紙面の文字も大きくなり、大変読みやすくなった。 保護者への意識調査の中で挙げられた要望についての分析と学校としての改善策が示されている。多くの要望があるのはよいことだが、保護者も学校とともに改善策を検討し取り組むという姿勢も大切なのではないか。 農業体験・網代探検等では児童がそれぞれ目的意識をもち、生き生きと活動していた。また、地域の人から学ぶ場が広がっている点が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 意識調査の内容と実施時期について検討し、より分かりやすい評価につながるよう工夫改善する。 地域の人や物から学び、ふるさと網代への愛着を高める学習を継続して推進する。 交流や合同研修などを通して、幼保小中連携の一層の充実を図る。
教育環境と学校財務環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインによる、安全・安心で快適な学習環境を整備する。 学校納入金事務取扱要領に則って学校納入金を扱い、PTAによる学校予算の定期的な監査を行って、適正な会計事務を進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや学級通信等、学校からの配布文書をスマート連絡帳や児童用タブレットを通して配信することでペーパーレス化を推進することができた。 安全・安心で快適な学習環境をめざし、校内の安全点検を確実にを行い、環境整備に努めた。特に、校内の樹木の剪定や遊具周辺の整備に努めた。 PTAによる学校予算の監査を定期的に行い、適正な会計事務を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境への配慮と経費削減のためにペーパーレス化を進めることはとてもよいことだが、文書の内容や配布対象に応じて紙と電子配信のハイブリッドで進めていくとよい。 樹木の剪定や学校設備の修繕などが進められているが、樹木剪定ゴミ等の処理については衛生面を配慮した対応が必要である。 準会員からPTA会費を収集しているが、集めたお金がどのように使われているかの報告があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーレス化の推進は今後も進めていくが、文書の内容や配布対象に応じて、適した方法で配布する。 PTA準会員への会計報告は、年度初めのPTA総会資料により行っていたが、次年度は学校だよりとともに会計報告も全戸に配布する。 環境整備のために出たゴミ等は、環境に配慮して計画的に廃棄していく。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時や登下校時の安全について、地域の人や保護者と共通理解を図って安全性を確保する。 多様な想定での「命を守る訓練」を実施し、「自分の命は自分で守る」意識を高める。 withコロナの考え方のもと、感染症対策を徹底・継続するとともに、食育・歯磨き指導など健康な体作りのために主体的に行動できる態度を育てる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域の水防団による防災学習や土砂災害を想定した垂直型避難訓練の実施、学校安全指導者派遣事業を利用した防災学習など、地域の実態に即した学習を実施し、防災意識を高めることができた。 感染症対策を踏まえた保健指導を推進した。また、「エチケット歯磨き」や手洗いなどの取組を、児童が委員会活動を通して主体的に進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 水防団による水防学習など地域の人から学ぶ防災学習は、自分の地域の安全は自分たちで守るという主体的な防災意識を育むことにつながる。 新型コロナウイルス感染症の拡大により多くの教育活動が中止されてきた。そのような中でも、指導すべきことを感染症対策に気を付けて再開し、その上でwithコロナを意識して改善しているところがいい。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災学習については、今後3年計画で「水防団による水防学習」「消防団による火災予防学習」「網代安全マップづくり」のサイクルを進め、自分たちで地域の安全を守る児童の育成をめざす。 感染症対策を踏まえつつ、自分の体や暮らしを見つめ、自分の健康を自分で守ることができるように保健・食育指導を行っていく。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/aiiro-e/>